

平成18年9月中間期 損害保険会社決算概況

1. 平成18年9月中間期決算の特徴点

平成18年9月中間期決算の特徴として、次の2点を挙げることができます。

第1点は、正味収入保険料が景気回復を反映し、前中間期に引き続き増収(+0.8%)となり、回復への足取りが強まってきたということです。

第2点は、9月の台風13号を中心とした、自然災害による保険金支払の要素により、収益が減少したことです。保険引受利益は、前中間期の569億円から、825億円減少し、255億円の赤字に転じました。その結果、前年同期比で経常利益が32.5%、中間純利益が33.0%それぞれ減益となりました。

2. 決算概況

経常収益は、保険引受収益が4兆4,768億円、資産運用収益が2,965億円、その他経常収益が203億円となった結果、前年同期比143億円(0.3%)減の4兆7,935億円となりました。

一方、経常費用は、前年同期比714億円(1.6%)増の4兆6,153億円となりました。

この結果、経常利益は、前中間期の2,640億円から857億円(32.5%)減益の1,783億円となり、税引後の中間純利益も、前中間期の1,540億円から508億円(33.0%)減益の1,033億円となりました。

3. 保険引受の概況

(1) 正味収入保険料

正味収入保険料は、主力の自動車保険で保険料が平成14年度からの4年連続の減収から一転して増加となり、加えて火災保険、海上・運送保険等殆どの種目で増収となったことから、前年同期比298億円(0.8%)増の3兆7,883億円となりました。

* 正味収入保険料 = 元受正味保険料 + 受再正味保険料 - 出再正味保険料

(2) 正味支払保険金

正味支払保険金は、自動車保険、自賠責保険等の支払保険金が増加し、前年同期比416億円(2.0%)増の2兆753億円となりました。

* 正味支払保険金 = 元受正味保険金 + 受再正味保険金 - 回収再保険金

また、損害率は、前中間期の58.3%から59.1%へ0.8ポイントアップしました。

(3) 保険引受に係る「営業費及び一般管理費」

保険引受に係る「営業費及び一般管理費」は、前中間期に比べ21億円(0.4%)増の5,724億円となり、事業費率は前中間期とほぼ同水準の31.9%となりました。

(4) 保険引受利益

保険引受利益は、前中間期の569億円から、一転して255億円の赤字となりました。

$$\text{* 保険引受利益} = \text{保険引受収益} - \text{保険引受費用} - \text{保険引受に係る営業費及び一般管理費} \pm \text{その他収支}$$

4. 資産並びに資産運用の概況

今中間期末における総資産は35兆9,914億円で、前中間期末と比べて株価水準が上昇したこともあり、前中間期末の34兆3,438億円から4.8%の増となりました。

また、利息及び配当金収入は、企業業績の回復・改善により配当金収入が増加したことなどから、前中間期比17.4%増の3,058億円となり、収益を下支えしました。

5. ソルベンシ - ・マ - ジン比率

ソルベンシ - ・マ - ジン比率については、全社とも200%を大幅に超えており、健全性については問題ない状況にあります。

協会加盟会社（22社）

あいおい損保、朝日火災、共栄火災、ジェイアイ、スミセイ損保、セコム損害保険、セゾン自動車火災、ソニー損保、損保ジャパン、そんぼ24、大同火災、東京海上日動、トーア再保険、日新火災、ニッセイ同和損保、日本興亜損保、日本地震、日立キャピタル損保、富士火災、三井住友海上、三井ダイレクト、明治安田損保

損害保険会社の平成18年9月中間期決算概況

